

問 村長、原発事故は 起こらないとは

答 適合性審査が確認されたならば

問 村長が「論理的に考えれば福島と同じような事故はまず起こらない」と考える根拠は。

答 新規制基準が福島の事故の反省を踏まえたものであり、適合性審査が確認されたならばという観点。

問 「最悪の事態を想定するのは極論だ」とし、避難は段階的にすれば大丈夫と楽観視するが、その根拠は。

答 U P Z（30キロ圏内）の避難を指したものの、指示が住民に混乱がないよう適切かつ明確に伝えられれば、という前提があつてのもの。



みすずの会
あべ 功志 議員

問 「積年の課題が解決するまで原子力を使つてはならないと言ふのは極論だ」とするが、積年の課題とは何か。

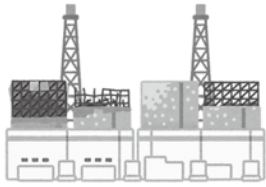
答 最終処分場や六カ所再処理工場の問題。

問 最終処分場が行き詰まっている問題を東海第二再稼働の要件に加えないのはなぜ。

答 世界レベルで見れば再処理技術は確立、と認識しているため。

問 原発推進の大元である核燃料サイクルは破綻しているが。

答 資源の有効利用、放射性廃棄物の減容化等の観点からその政策推進は必要と考える。



福島のような事故はもう起こらないと本当に言えるのか

問 災害は起こりえるとの 認識醸成

答 今後の災害に備えて整備を進める

問 避難所で住民の意見を聞き、住民のリスク意識の醸成が必要と感じた。次の災害に備えて住民の行動や避難の実施に対する住民の意見を確認すべきと思うが見解を伺う。

答 今後の災害に備えての整理・検証を進める。

問 住民の安心と自ら行動を判断をするために、4点の提案について見解を伺う。①避難行動要支援者等の居場所確認に、スマホアプリやICタグ等の活用で居場所が分かるシステムがあり、村も採用する。



新政とうかい
よしだ みちひろ 議員

る。②災害状況の見える化は、久慈川、新川等の水位・画像を村HPへアップする。③防災士を各自主防災組織に配置し、訓練、講話を行う。④避難想定者を見越した避難所開設をする。



石神外宿地内堤防から榊橋を望む

答 ①実効性や有効性について、調査研究する。②国・県のHPの周知を図るとともに、村HPからのアクセス性改善を検討する。③県や防災士会へ相談し、自主防災組織への紹介等を進める。④状況把握等に一層の検討を加え、柔軟に開設する。